

経済振興委員会報告資料

観光・MICE推進プログラムの改定について

令和4年9月
経済観光文化局

1. 改定の趣旨

平成30年9月に制定された福岡市観光振興条例を踏まえ、観光・MICEの取組みの方向性を示した「観光・MICE推進プログラム」については、令和2年度から令和4年度までの取組みとなっているため、令和5年度以降の取組みについて、新型コロナウイルス感染症からの回復及び変容した観光ニーズや社会環境等に対応するプログラムに改定するもの。

2. 現行の観光・MICE推進プログラムにおける主な取組み（令和2年度～令和4年度）

「観光・MICE 推進プログラム」は、福岡市観光振興条例に定める「市長が講ずる施策」について、方向性をさだめて施策を推進している。

福岡市観光振興条例

- ・観光産業の振興(第6条)
- ・受入環境の整備(第7条)
- ・観光資源の魅力の増進等(第8条)
- ・MICEの振興(第9条)
- ・持続可能な観光の振興(第10条)



現行の「観光・MICE推進プログラム」の方向性

- 九州のゲートウェイ都市機能強化
- 2020年以降の大型MICE開催等の集客拡大への対応
- 地域や市民生活と調和した持続可能な観光振興の推進

(1) 各施策における主な取組みの成果及び課題

(ア) 九州のゲートウェイ都市機能強化

▶ MICE施設をはじめとする都市機能強化

マリンメッセ福岡B館を整備（令和3年4月1日開館）するとともに、民間のMICE施設も増加するなど、供給不足による機会損失の解消と将来の需要回復を見据えた都市機能強化が進められている。

また、感染症対応シティとして、観光客や市民が立ち寄る店舗やサービス提供施設に対して感染対策への強化を支援（8,335件）することにより、天神ビッグバンにあわせた都市のアップデートに取り組み、安全安心に配慮したまちづくりを促進した。

▶ 市発着の九州周遊観光の推進

インバウンドの再開及び世界水泳選手権大会に向け、九州の自治体等と連携し、歴史・自然・食などのテーマを設定した九州周遊観光の魅力をホームページやSNSなどで発信するとともに、福岡都市圏の自治体等と連携し、福岡市内に宿泊する修学旅行やバスツアーの受入れ等に取り組み、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受ける観光関連産業の活性化を図った。

また、公衆Wi-Fiスポットを観光関連施設（6施設）や地下鉄駅（16駅）等で拡充し、広域観光情報の発信を行うなど、観光客や市民の利便性の向上を図った。

▶ デジタルマーケティングによる観光振興の強化

ビッグデータを活用した人流動態や興味関心を分析し、市内観光関連事業者向けにセミナーを開催し、ビジネスチャンスにつながる取り組みを進めた。



<マリンメッセ福岡B館>



<修学旅行での人力車体験>

➤ 残された課題

新型コロナウイルス感染拡大に伴う外国人観光客の出入国制限によりインバウンド需要は消失するとともに、国内においても県をまたぐ移動の制限などにより国内観光客が減少するなど、観光消費が落ち込んでいる。

また、九州のゲートウェイ都市として、ウォーターフロント地区においては、質の高いMICE開催に資するMICE拠点の形成や海辺空間を活かした賑わい・憩い空間の創出が引き続き求められるとともに、魅力ある観光コンテンツを有する九州の自治体と連携し、福岡を起点とした周遊ルートを形成することで、九州全体の観光活性化を図り、九州経済へ貢献していく必要がある。

【図1】 入込観光客数及び観光消費額の推移(推計)

	平成30年	令和元年	令和2年
入込観光客数(万人)	2,141	2,148	1,126
観光消費額(億円)	5,020	5,305	1,517

出典：福岡市「『福岡市の観光・MICE』2022版」

【図2】 外国人入国者数

	令和元年	令和2年	令和3年
外国人入国者数(万人)	269.5	32.0	0.6

出典：福岡市「『福岡市の観光・MICE』2022版」

(イ) 2020年以降の大型MICE開催等の集客拡大への対応

➤ 大型MICEでの魅力発信と更なるMICE誘致

ポストコロナに向け、MICE主催者や施設に対してハイブリッド開催に係る支援を実施(主催者：114件、MICE施設：34件)し、受入環境を充実させるとともに、SDGs達成に資するMICE開催への支援を行うなどMICEの需要喚起を図った。

また、オンラインを活用したセールス活動及び誘致活動を実施し、国内外のMICEを誘致(国際：31件、国内：204件)した。

➤ 集客拡大に伴う受入環境の充実

世界水泳に向けては、来訪者向けサイトの制作や多言語対応の飲食店等を「おもてなし店舗」として認証及び情報発信するとともに、ヴィーガン・ベジタリアンのセミナー等の実施により食のユニバーサル対応を促進し、受入環境の充実を図った。

➤ 歴史・文化資源を活用した観光振興

「博多旧市街プロジェクト」において、まちなみ装飾の灯籠設置や地下鉄祇園駅構内のイラスト装飾、地元事業者と連携して魅力ある宿泊・体験・お土産などを「博多旧市街セレクション」として商品認定するなどエリア観光の推進を図るとともに、福岡城においては昼夜を問わず訪れられるよう夜間照明の整備や生の松原元寇防塁における駐車場整備など受入環境の整備を進めている。

また、文化観光推進法に基づく文化観光の計画を検討しているほか、「Fukuoka Art Next」と連携した文化観光の推進などの新たな観光資源の磨き上げに着手している。



<ハイブリッド型MICE支援>



<博多旧市街の装飾(灯籠)>

➤ 残された課題

新型コロナウイルス感染拡大によるMICEの中止・延期を受け、MICE関連事業者へ大きな影響を及ぼしていることから、ポストコロナを見据え、都市のプレゼンス向上や地域経済の活性化に繋がる質の高いMICEの誘致強化が求められるとともに、比較的回復の早い展示会（E）など、ターゲットを拡げていく必要がある。

また、福岡市の強み・魅力である歴史・文化芸術、自然を活かした観光コンテンツの造成とともに、「Fukuoka Art Next」、「リバーフロントNEXT」及び「Fukuoka Green NEXT」などの市主要施策と一体となった観光の魅力発信が引き続き必要である。

【図3】国際会議の開催件数

	平成30年	令和元年	令和2年
国際会議の開催件数（件）	293	313	15

出典：日本政府観光局（JNTO）「国際会議統計」

（ウ）地域や市民生活と調和した持続可能な観光振興の推進

➤ 観光産業の生産性向上

宿泊施設におけるポストコロナを見据えた非対面・非接触などの設備や高付加価値機能の導入を支援（208件）し、安全安心の推進と宿泊事業者の生産性向上を図るとともに、新たな宿泊需要の喚起に繋がるプランの造成・販売を支援（255件）した。

➤ 自然など地域資源を活かした観光振興

「Fukuoka East & West Coast プロジェクト」においては、北崎地区では歩道の美装化や無電柱化整備を行うとともに、志賀島地区ではサイクルラックを設置し、サイクルツーリズムの周遊コース造成など魅力向上に取り組み、コロナ下におけるマイクロツーリズムのニーズに対応した。

また、ワーケーションの推進に向け、共働して取り組むパートナーを募集（175企業）するとともに、専用サイトで情報発信を行うなど、ビジネスによる旅行需要の喚起を図った。

➤ 観光と市民生活との調和

観光客や市民の利便性向上を図るため、地下鉄博多駅及び天神駅におけるエスカレーター及びエレベーターの整備などを実施した。

また、サステナブルツーリズム※を推進するためのセミナーの開催及びCO2排出量抑制や環境保全に資するモデルツアーを実施し、観光関連事業者のSDGs貢献への機運醸成を図った。

※サステナブルツーリズム：旅行者、観光関連産業、自然環境、地域社会の需要を満たしつつ、経済面・社会面・環境面の影響も十分考慮に入れた観光



<歩道の美装化（北崎）>



<地下鉄博多駅エスカレーター>

➤ 残された課題

観光産業の持続性と観光需要の分散化を促進するとともに、地域の魅力を観光資源として磨き上げ、環境に配慮した観光振興に取り組む必要がある。

また、出張の自粛やオンライン会議の拡大等に伴い、ビジネス利用が主となっていた宿泊施設の平日利用は減少していることから、ワーケーション等を活用したビジネスによる来訪機会の創出が求められる。

さらに、地域経済の活性化のため、地域への観光消費拡大を図るとともに、インバウンド再開を見据え、観光客のマナー向上や市民生活に配慮した取り組みが求められる。

(エ) 新型コロナウイルス感染症関連事業（観光産業関連分） ※一部再掲

福岡県が行う緊急事態措置やまん延防止等重点措置の実効性をより高め、感染拡大防止を強力に押し進めるとともに、地域経済の維持を図るため、様々な経済支援策を実施した。

(※件数は延べ数)

- 飲食事業者を対象としたテイクアウト支援や休業要請への協力店舗等への家賃支援など事業継続に向けた支援を実施するとともに、来客用窓口を有する店舗等の空調機の更新や感染症対応機器等の購入費等を支援するなど、安全安心に配慮したまちづくりを推進した。

- 地域の飲食店を支えるテイクアウト支援 (14,819件)
- 休業要請への協力店舗等への家賃支援 (41,774件)
- 感染症対応シティ促進事業 (8,335件)

- 宿泊事業者、観光関連事業者を対象とした支援事業により観光の需要喚起を図ったほか、宿泊施設における消毒・除菌対応等の安全対策の支援や、ポストコロナを見据えた施設・サービスの高付加価値化及び生産性向上の取り組みを支援した。

- 修学旅行等による都市圏周遊の推進 (修学旅行等の貸切バス代支援：388台)
- 宿泊事業者が取り組む感染症予防に対する支援 (643件)
- 宿泊施設の高付加価値化等支援事業 (208件)
- 新たな生活様式に対応した宿泊施設の多様な利用促進事業 (255件)
- 福岡型ワーケーション推進事業 (ワーケーション推進パートナー：175企業)

- MICE関連事業者を対象に、ポストコロナを見据えたMICEのあり方に対応した「MICEのハイブリッド開催支援(ポストコロナMICE支援)」を実施した。

- MICEのハイブリッド開催支援(主催者：114件、MICE施設：34件)



感染症対応シティ促進事業



修学旅行等による都市圏周遊の推進



福岡型ワーケーション推進事業

(2) 指標と目標値

	[目標]	[2020年]
入込観光客数	2,300万人	1,126万人
観光消費額	6,000億円	1,517億円
外国人入国者数	320万人	32万人 (0.6万人 2021年)

3. コロナにより変容した観光ニーズと今後の取組みの視点

残された課題については継続的に取り組むとともに、新型コロナウイルス感染症により変容した観光ニーズや社会環境へ対応するため、新たな課題についても取り組む必要がある。

(1) コロナにより変容した観光ニーズについて

- ▶ 国内外の観光客においては、コロナによる大きな社会環境の変化により、環境やSDGsへの関心が高まるなど、観光におけるSDGsへの貢献が意識されてきている。

【図4】世界の旅行者の意識調査



出典：Booking.com「Sustainable Travel Report 2022」（2022年6月）

- ▶ 市内宿泊施設においては、観光による週末利用は回復基調であるものの、出張の自粛等により、ビジネス利用は減少している。一方で、全国的にテレワークの実施が進んでおり、長期滞在や多拠点生活などの多様化するライフスタイルへの関心が高まっている。

【図5】市内宿泊施設の客室稼働率の推移

	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年5月
客室稼働率	82.1%	79.6%	34.8%	33.7%	46.8%

出典：福岡市「福岡市の観光・MICE」2022版

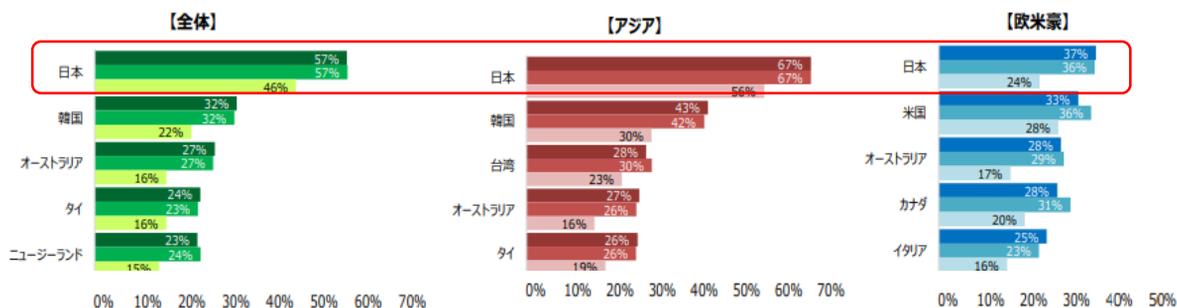
【図6】テレワーク実施度ごとの多拠点生活への関心度



出典：KDDI総合研究所「地方移住/多拠点生活に向けての生活者理解（第2回）」（2021年7月）

- ▶ アジア・欧米豪の両地域においては、海外旅行したい国・地域として、日本への旅行に対する関心が高まっており、今後のインバウンド需要の回復が期待される。

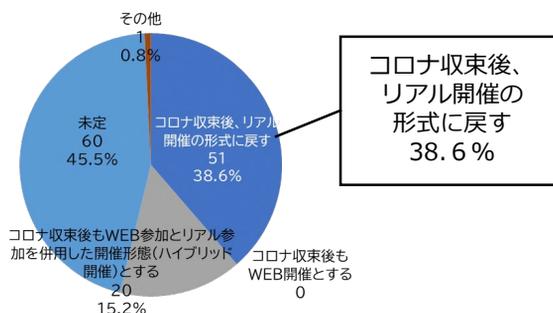
【図7】次に海外旅行をしたい国・地域（アジア・欧米豪からの海外旅行者）



出典：国土交通省「観光白書（令和4年度版）」より一部抜粋

- MICEにおいては、コロナ下では対面での交流は難しいことから、リアルとオンラインを併用したハイブリッド型が開催されているものの、コロナ収束後はリアルによる開催が望まれている。

【図8】 コロナ収束後のMICEの開催形態



出典：福岡市「MICE主催者へのアンケート調査」(2021年3月)

(2) 今後の取組みの視点 (案)

① コロナにより失われた観光・MICE需要の回復

コロナにより失われた観光・MICE需要を回復させるために、これまでのインバウンド市場の回復を図りつつ、新たな国・地域からの誘客に取り組むとともに、多様なツーリズムへの対応など、新たな市場開拓に取り組む。

② 福岡らしい魅力ある文化観光の推進

福岡の持つ独自の歴史・伝統文化及び文化財を活用するとともに、文化観光推進法に基づく計画の策定や「Fukuoka Art Next」等と連携した文化観光に取り組むことで、観光によるWell-beingの推進にもつなげる。

③ 世界の潮流であるSDGsに資する観光・MICEの推進

世界共通の目標であるSDGsへの貢献に取り組んでいくとともに、多様性・包摂性に対応したサステナブルな観光・MICEの推進による魅力向上を図っていく。

④ ビジネス機会の創出によるビジネス目的地としての魅力向上

福岡のビジネス環境を活かした新たな交流やビジネス機会を創出し、ビジネスにおけるデスティネーションとしての価値の向上に取り組む。

⑤ 観光産業における観光DXの推進

リスクに強いレジリエンスな観光産業界の形成に向け、デジタルの活用による観光産業の生産性向上を図るとともに、観光資源へのデジタル技術の導入等による魅力向上など、観光DXを推進していく。

4. 今後のスケジュール (予定)

プログラムの改定に際しては、観光・MICEの専門家による有識者会議において、ご意見をいただきながら進めていくとともに、議会には適宜報告していく。

令和4年12月 プログラム原案の報告
令和5年4月 プログラム施行